

チャレンジがいっぱい

困難が子どもを成長させます

今回は「チャレンジ」に焦点をあててみたいと思います。

「チャレンジ」すごく大切なことだと思います。「チャレンジ=教育」だということもできると思います。教室でのさまざまな学習は「できなかったことができるようになるためのチャレンジである」ということもできます。

日々の授業は新しい知識と技能への挑戦、朝

の5分間走もそうですし、今月の詩の暗唱も、ICT機器活用も、部活動も、漢字の学習も、文化展も、久玉版サスケも、委員会活動も、人間関係をうまくつくっていくことも、無言掃除も、久玉小には実にチャレンジがいっぱいあります。

このチャンスを生かして、どんどん自分を成長させていっている子どもたちがいます。「やってみようかな」この気持ちが大切です。

チャレンジするということ

これから成長していく子どもたちには、ぜひチャレンジする人になってほしいと思いますし、それは保護者のみなさまも同じ気持ちではないかと思えます。

人生って、まさにチャレンジの連続ですよね。目の前にあるものを「困難」ととらえるのか、「チャレンジ」ととらえるのかで、大きく変わってきます。

学校って、人生を疑似体験する場でもあります。そう考えると、つらいことも、うれしいことも、いっぱい体験することに大きな意味があります。つらいことであれば、その対処法も学んでいくことで、やがて社会に出たときの生きる力となります。怒られても、同じ過ちを起こさないことへのチャレンジの始まりになります。これからも、久玉小は、チャレンジの機会を多く用意します。子どもたちは自分から、どんどんチャレンジをして、チャレンジすることのおもしろさを体感してほしいと思います。



先生になって授業をしてみた(6年)



算数の授業は日々チャレンジ(5年)



今月の詩の暗唱もチャレンジ



今月の詩の暗唱もチャレンジ



心を込めた話の聴き方もチャレンジ



「履物をそろえる」継続もチャレンジ



「朝の5分間走」もチャレンジ



ICT機器の活用ももちろんチャレンジ



風景面にチャレンジ



万能いすづくりにチャレンジ



「おかわりくん」もチャレンジ



「無言掃除」の継続もチャレンジ



4年生も毎日成長へのチャレンジ



2年生も毎日成長へのチャレンジ



人生とはいつになってもチャレンジ



チャレンジとはあきらめないこと



2学期のめあて発表もチャレンジ



職員室の入り方もチャレンジ



新しい挑戦こそチャレンジ

Bigriver's tweet~校長室より~



「一人一人が夢を持ち、一人一人が主役になる楽しい学校」。これは、平成28年度のスタートにあたり、私がこんな学校にしたいなと目標として描いた学校像です。子どもたち一人一人が夢や希望(目標)を持つ人になってほしいと願っています。そして、それを実現するために、一人一人が学習や生活を通して自分の力を高めていってほしいと願っています。その過程こそ、一人一人が主役となり輝いているときだと思います。

私たち人間は、できないことができるようになりたい。もっといろいろなことを知りたい。今よりもよい人間になりたいという願いがあります。だからこそ、人間には頑張っ

て勉強したり、練習したりする力があるそうです。学校だけでなく、家庭や地域でもたくさんのことを学んでいます。もっと〇〇できるようになりたいという目標に向かって取り組むことはこれから生きていく上でとても大切なことなんです。さて、全ての久玉っ子が2学期の目標を立てることができました。各学級では、文化展に向けて毛筆や硬筆、描画の学習が始まりました。2学期は、陸上記録会や音楽会があります。集団宿泊教室や修学旅行、マラソン大会も控えています。個人のカリだけでなく集団の力を高める絶好のチャンスです。スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋...よくいったものです。いろいろな秋がありそうですね。上手、下手で決めてしまうのはもったいない。「面白そうだな」「これだったら続けられるかも」「苦手だからあえて挑戦」...自分にやる気を起こさせてくれるもの、それが自分だけの「〇〇の秋」だと思います。自分で自分を褒めてあげられる「〇〇の秋」をみつけましょう。頑張ったことは、絶対に自分の力になりますよ。頑張れ、久玉っ子。

Bigriver's tweet

いつも負けを覚悟していませんよ。そうでないで、練習にも身が入らないし、もっと伸ばそうと思えないですから。

いい言葉は心にひびく

(校長室の通信Gboard)